



## 挨拶

文部科学大臣 永岡 桂子

第86回全国学校歯科保健研究大会の開催に当たり、一言挨拶申し上げます。

本大会に御参加の皆様におかれましては、日頃から学校歯科保健活動の充実のため御尽力をいただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。また、長年にわたり学校歯科保健の発展・普及に御活躍いただき、顕著な功績を上げられ、表彰の栄に浴された皆様方に対し、深く敬意を表するとともに、心からお祝い申し上げます。

学校における歯・口の健康づくりに関しては、むし歯の予防を中心として取組が行われ、大きな成果を上げてきました。しかし、近年の子供の現状をみると、咀嚼など口腔機能の未発達や口腔の疾病の増加、食育の重要性などが指摘されており、その指導や対策についても、今後、一層の充実が求められています。

歯・口の健康づくりは、子供の生活環境や食生活の影響を受けるものであることから、これらの課題に学校が適切に対応するためには、学校歯科医の皆様をはじめ、家庭や地域社会との連携が不可欠となります。学校歯科医の皆様におかれましては、引き続き、学校と緊密に連携していただき、歯科保健に関する専門的な御知見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

また、学校における歯・口の健康教育のみならず、歯科健康診断の結果も踏まえて、子供たちが自らの生活を見直し、よりよい生活習慣を身に付け実践していくことができるようにしていくことも重要となります。

このため、文部科学省では、児童生徒や保護者に対する情報提供が一層丁寧に行われるよう、公益社団法人日本学校歯科医会に御協力いただき、歯科健康診断の検査及び検査結果の通知の際に各学校に留意いただきたい事項をまとめ、本年3月30日に各学校に周知したところです。

本大会では、学校歯科保健の更なる充実を図るため、「口腔から全身の健康づくりを目指して～未来の生活を支える学校歯科保健～」をテーマに、シンポジウムや日頃の実践を踏まえた研究協議等が行われます。御参加の皆様にとって、実り多き大会となるよう、心から期待しています。

結びに、本大会の開催に御尽力いただきました公益社団法人日本学校歯科医会をはじめとする関係の皆様にご改めて感謝申し上げますとともに、本大会の御成功と、御参加の皆様のますますの御活躍を祈念し、挨拶とさせていただきます。



## 挨拶

公益社団法人日本学校歯科医会

会長 川本 強

本日、多くのご来賓ならびに学校歯科保健に携わる皆さまを日本全国よりお迎えし、86回目の全国学校歯科保健研究大会をここ、緑と清流と歴史の地、山梨県において盛大に開催できますことは、誠に喜びに堪えないところでございます。

学校歯科保健は、今回ご参加いただきました皆様をはじめとした先生方お一人お一人の日々のご尽力と情熱に裏打ちされた弛まぬ日々のご研鑽によって支えられております。ここに、あらためて主催者の一人として皆様の日頃のご活躍、ご尽力に深甚なる敬意を表する次第でございます。

私は、学校歯科保健というものは「頂のない山登り」のようだと思っております。と申しますのは、「あそこが頂上だな」と思って登っていきますと、それは単なる一つの峰で、では今度こそあそこがと思って登っていくと二つ目の峰で、また、といった具合に続いていきます。つまり新入生を受け入れ、1年2年3年、あるいは4年5年6年と送り出しましても、再び新入生を受け入れては繰り返すこととなります。一生研鑽なのだと思っております。

いま私たちは大変興味深い時代に生きていると言えます。なぜならいまは「健康の世紀」と言われており、私たち一人ひとりがあらかじめ予防を心がけることができるようになってまいりました。医療の側も、従来型の「治療」から「予防」に重心を移してきております。ここ最近の学校歯科保健に目を向けますと、児童生徒のむし歯の状況は目覚ましい改善が認められております。これこそまさに私たちが目指し、大会主題にも言及しております「口腔から全身の健康づくり」の具現化といえ、感慨深いものがあります。一人でも多くの皆様が、生涯にわたる健康を維持するうえでの大切な要素の一つとして、「歯・口の健康」に着目され、「口腔から全身の健康づくり」を獲得するために大切なことを考えるきっかけとなり、そしてその答えを見つけるお手伝いの役割を、本大会が担えましたならこの上ない喜びであります。

結びにあたり、文部科学省、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会の皆様をはじめ、本大会の開催にあたって、ご後援いただきました関係各位に、衷心よりお礼申し上げますとともに、ご参加の皆様のますますのご健勝とご隆盛を祈念いたします。



## 挨拶

一般社団法人山梨県歯科医師会

会長 三森 幹夫

本大会は、昨年度の東京大会に続き、コロナ禍での開催となりました。このため、多くの関係者の皆様からの御理解、御支援をいただく中で、日本学校歯科医会と力を合わせ、感染対策にも十分配慮しながら、より多くの方々に参加いただける大会となるよう、準備を進めて参りました。

こうして無事開催の運びとなったことを、心より嬉しく思っております。

本大会の会場とオンラインのハイブリッドでの開催は、戦前から続く大会初の試みであり、大会当日会場で行う開会式や特別講演、シンポジウム等はライブ配信も同時に行い、また、領域別研究協議会は、事前収録し、オンデマンド配信を行います。

大会開催にあたっては、大会の主題の「口腔から全身の健康づくりを目指して」、そして副題の「未来の生活を支える学校歯科保健」のあり方を探求し、講演者や発表者の皆様に日頃の活動の成果やお考え等を如何なく発表していただき、今後の手本ともなる素晴らしい大会となるよう、願っております。

また、本大会を「健康長寿の甲斐の国・山梨」で開催することは、全国に先駆けて取り組む、25人の少人数学級におけるきめ細かい健康教育や、人生100年時代の健康長寿の基本となる、学校歯科保健での先進的な取り組みを、全国に向けて力強く発信する貴重な機会となるものと嬉しく思っております。

なお、本大会は、事前収録も含め豊かな自然と、有数の観光名所、美味しい食べ物などを有する山梨県甲府市での開催です。

大会の運営に関わる事務局、会場スタッフあけて、おもてなしの心を胸に、参加者の皆様をお迎えし、山梨の魅力を満喫していただく機会にもしたいと考えております。

結びに、コロナ禍という未曾有の事態の中、児童・生徒等の健康を守るため、日夜心を配り、懸命に取り組んでおられる参加者の皆様に、敬意と感謝を表するとともに、今後の歯科保健活動の更なる推進に、本大会の様々な取り組みが資することを心より期待申し上げます。



## 挨拶

公益財団法人日本学校保健会

会長 中川 俊男

第86回全国学校歯科保健研究大会式典の開催に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。本日もご参加の皆様には、日頃から学校歯科保健の普及向上に熱心にお取り組みいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。また、長年にわたり学校歯科保健の発展・普及にご活躍いただき、顕著な功績を上げられ、表彰の栄に浴されました皆様方には、深く敬意を表しますとともに、お祝い申し上げます。

近年、社会環境や生活環境の急激な変化が子供たちの心身の健康に大きな影響を与え、様々な教育課題が生じております。新型コロナウイルス感染症に対応した学校の教育活動も3年目に入りました。「学校の新しい生活様式」における課題は引き続き対応すべきものとなっており、感染の状況を的確にとらえ、迅速な対応が求められています。

本日は、「口腔から全身の健康づくりを目指して」を主題に、「未来の生活を支える学校歯科保健」を副題に掲げ、全国から多くの学校歯科保健関係者が参加し、研究協議を行うことは、大変意義深いことと存じます。

複雑・多様化する子供たちの健康課題の解決のためには、学校における対応だけでなく、子供の健康を守るための関係機関の連携が不可欠であります。特に、現在のように長期に渡る感染症対応が続く中、より関係機関の連携の重要性は、高くなっております。全国の各学校歯科医会におかれましても、学校保健の地域連携体制の構築にご尽力いただきますようお願いいたします。

本会は文部科学省の指導、協力の下、様々な学校保健の事業を推進しております。本年度は、新規事業としてアレルギー疾患の調査や「学校における医薬品管理マニュアル」の改訂及び「喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する指導参考資料」研修会などの開催、また、地域の感染症リアルタイムサーベイランスである「学校等欠席者・感染症情報システム」の普及・充実を図ってまいります。引き続き、ご支援賜りますようお願いいたします。

最後に、本大会の開催にご尽力されました公益社団法人日本学校歯科医会、一般社団法人山梨県歯科医師会、山梨県教育委員会をはじめとする関係各位に敬意を表するとともに、ご参会の皆様のご健勝と本大会の益々のご発展を祈念し、挨拶といたします。



## 挨拶

山梨県知事 長崎 幸太郎

ようこそ！山梨へ！

第86回全国学校歯科保健研究大会が、山梨県において盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地からお越しの皆様を心から歓迎いたします。

また、長年にわたり、学校歯科保健の推進と向上に御尽力され、本日、栄えある表彰を受けられる皆様に敬意を表し、お祝い申し上げます。

さて山梨県では、すべての県民が心身ともに健やかで心豊かな生活ができる社会の実現に向けて、口腔の健康格差縮小を図るため、『山梨県口腔の健康づくり推進計画』に基づき、山梨県歯科医師会をはじめ学校等関係機関や市町村の皆様との連携のもと、歯科保健医療対策を推進しているところです。

こうした中、私たちは、ここ3年近く新型コロナウイルス感染症と向き合い、生活習慣や健康について改めて考えさせられる機会を与えられました。

コロナ禍の今、ここ山梨の地で学校歯科保健に携わる皆様一堂に会し『口腔から全身の健康づくりを目指して』をテーマに本研究大会が開催されることは誠に意義深く、子どもたちのこれからの健康を支える学校歯科保健が一層推進するものと期待しております。

さて、山梨県は、富士山をはじめとする山々などの恵まれた自然環境、高品質な食材に裏打ちされた豊かな食文化、高い技術と伝統を持つ地場産業など、多くの地域資源を併せ持った全国でも希有な地域です。

皆様には、この機会に是非とも県内各地に足を運ばれ、存分に山梨の魅力を感じていただければ幸いです。安心して御利用いただけるよう、県が認証した「やまなしグリーン・ゾーン認証施設」では、徹底した感染症対策を講じて皆様をお待ちしております。

結びに、本大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本大会の御成功と、御参会の皆様のお健勝、御活躍を祈念して挨拶とさせていただきます。



## 挨拶

甲府市長 樋口 雄一

このたび、日本全国から多くの学校歯科保健に携わる皆様をお迎えし、ここ甲府市において、「口腔から全身の健康づくりを目指して」をテーマに、第86回全国学校歯科保健研究大会が開催されますことは誠に喜ばしく、心から歓迎を申し上げます。

また、皆様方におかれましては、日頃より、学校歯科保健の推進と向上にご尽力いただいておりますことに、深く敬意を表するとともに、本日、表彰の栄を受けられます皆様に心からお祝いを申し上げます。

歯と口腔の健康の保持・増進は、口から食べる機能の保持のみならず、食事や会話を楽しみ、心豊かな生活を営むために欠かせないことから、本市におきましても、甲府市歯科医師会様をはじめ、関係機関の皆様と連携し、生涯を通じた歯科疾患の予防や早期発見に向けた、様々な歯科保健事業に取り組んでいるところであります。

特に、幼児期、学童期は、健康的な生活習慣を身につけ、人生100年時代を「生き抜く力」を育む、重要な時期であり、長引く新型コロナウイルスの影響により「健康」への関心が高まる中、本大会が開催されますことは、誠に意義深く、子どもたちの健康づくりにつながるものと期待しております。

さて、甲府市には、豊かな自然に加え、日本遺産に登録された「御岳昇仙峡」や「武田神社」などの観光名所のほか、特産品である葡萄、ワイン、甲州印伝、ジュエリーなど、数多くの魅力がございます。是非、この機会に、心ゆくまでご堪能いただければ幸いに存じます。

結びに、本大会の開催にご尽力を賜りました、関係者の皆様に改めて感謝を申し上げますとともに、大会の成功と皆様方の益々のご健勝、さらなるご活躍を心から祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。



## 挨拶

山梨県教育委員会  
教育長 手島 俊樹

本日、全国から多くの学校歯科保健関係者をお迎えし、「第86回全国学校歯科保健研究大会」が、山梨県において盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。

また、学校歯科医の皆様をはじめ関係者の方々には、日頃から学校歯科保健活動を通して、子どもたちの生涯にわたる健康づくりのために御尽力いただいておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、子どもたちを取り巻く生活環境は、コロナ禍において大きく変化し、心身に大きな影響を与え、様々な健康課題が生じております。

このような中、子どもたちが生涯を通じて、自律して健康に生活を送ることができる力を身につけさせることが重要な課題であり、学校、家庭、地域、関係機関など社会全体で相互に連携を深めながら、この課題に対する取り組みを進めていくことが必要であると考えております。

山梨県では、平成26年度に「山梨県口腔健康づくり推進計画」を策定し、「すべての県民が心身ともに健やかで心豊かな生活ができる社会の実現」を全体目標として、ライフステージに応じた取り組みを行っているところです。

また、山梨県教育委員会では、毎年、口腔衛生の管理、指導について取り組んでいる学校を「口腔衛生推進優良校」として表彰し、歯科疾患の早期発見、早期治療並びに予防指導の充実を図っております。

本大会におきまして、「口腔から全身の健康づくりを目指して」を主題に、「未来の生活を支える学校歯科保健」を副題として、全国各地における実践の成果が持ち寄られ研究が深められますことは、学校歯科保健の充実と発展に寄与するものと期待しております。

結びに、本大会の開催に御尽力いただきました、多くの関係者の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、皆様の益々の御活躍を心よりお祈りいたしまして、御挨拶とさせていただきます。



## 挨拶

甲府市教育委員会  
教育長 數野 保秋

第86回全国学校歯科保健研究大会が、「口腔から全身の健康づくりを目指して」を主題に、ここ甲府市において盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

また、川本会長をはじめ、ご参加の皆様におかれましては、日頃から学校歯科保健に多大なるご尽力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、子どもたちの生活環境や、社会状況が急激に変化する現在において、特に新型コロナウイルス感染症への対応が長期化する中、教育現場では、感染症対策を踏まえた教育活動を展開し、子どもたちの学びの保障や健やかな発達のため、多種多様な取組みが求められております。

本市では、「甲府市教育大綱」に基づき、「次代を担う子どもたちの個性と才能を伸ばし、人間性豊かで創造性に富む人間形成を図るため、夢に向かっていきいきと学べる教育環境を創造し、市域に育まれた歴史や文化を継承しながら、地域のつながり、未来（あした）につなぐ「まなび」を推進する」を基本理念に、郷土の発展と次代の繁栄を託すことができる人づくりの実現を目指しております。未来を担う子どもたちが思い遣る心や生きる力を身につけ、自身の健康に関心を持ち、心身共に健康で過ごしていく力を培うことは、とても重要であると考えております。

こうした中、学校歯科保健の専門家の皆様や学校及び関係機関の皆様が集い、本大会が開催されますことは、大変意義深いことであり、これを契機として学校歯科保健のさらなる向上が図られることを期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり、ご尽力賜りました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、ご参加の皆様方のご健勝とさらなるご活躍を祈念し、挨拶といたします。



## 祝 辞

厚生労働大臣 加藤 勝信

第86回全国学校歯科保健研究大会の開催に当たり、一言御挨拶させていただきます。

はじめに、この度、栄えある表彰を受けられる皆様に対し、心からお慶び申し上げます。また、日本学校歯科医会をはじめとした本日御参加の皆様には、日頃から幼児期、学齢期の歯科保健の向上に御尽力されていることに対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

我が国において、高齢化が進行している中、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図る上で、全身の健康にもつながる口腔の健康の重要性が指摘されております。健康長寿を目指していく上で、幼児期や学齢期から健全な食生活の基礎となる口腔機能の獲得を図るなど、生涯にわたり切れ目のない歯科保健対策を講じていくことが非常に大切であると考えております。

このため厚生労働省では、「歯科口腔保健の推進に関する法律」に基づき、平成24年に「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」を策定し、歯科疾患の予防などに関する目標を定め、取組を進めてまいりました。

本年、基本的事項の策定から10年を迎え、目標設定に係る最終年度であることから、目標の達成状況などの総括を行いました。この中で、学齢期の歯科疾患予防の目標である「12歳児でう蝕のない者の割合の増加」については、平成23年には54.6%であったのに対して、令和元年には68.2%まで改善しており、目標値の65%を超えました。

一方で、依然として都道府県間の格差が認められるなど、課題も浮き彫りとなったことから、今回総括した結果を踏まえ、今後新たな目標を策定し、対策を強化していくこととしています。

今年の大会は、「口腔から全身の健康づくりの展開を目指して」を主題、「未来の生活を支える学校歯科保健」を副題として、幼児期、学齢期における歯科保健に関するシンポジウムや講演、研究発表などが行われると聞いております。

今般の新型コロナウイルス感染症への対応も踏まえた、幼児期、学齢期におけるう蝕予防対策や口腔機能の獲得を図るため、今回の大会が大変有意義な機会となり、歯科保健の一層の推進に大きく寄与することを期待しています。

最後になりますが、本大会の開催に御尽力された日本学校歯科医会の益々の御発展と、本日御参加された皆様の御健勝を祈念して、私の挨拶といたします。



# 祝 辞

公益社団法人日本歯科医師会

会長 堀 憲郎

幼児、児童生徒、学生ならびに教職員の健康の保持増進のため、調査研究を行い、学校保健の円滑な実施に寄与することを目的とした「全国学校歯科保健研究大会」が86回を数え、この度山梨県で開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

そして、本大会で栄えある表彰を受けられる皆様には、長年に亘るご尽力とご功績に、深甚なる敬意を表するとともに心からお祝い申し上げます。

さて、我が国の公的医療制度の始まりと言われる「健康保険法の成立」から、今年で丁度100年になります。この間、歯科界は戦後のう蝕蔓延への予防活動、30年以上に及ぶ8020運動に積極的に取り組み、大きな成果を上げました。更には口腔の健康が全身の健康に関係するという多くのエビデンスの発信により、「生涯にわたる歯科口腔保健の重要性」が深く認識され、国の「骨太の方針」にもそれが明記されています。

将来に向けて歯科界が目指す「歯科医療と口腔健康管理の充実により、健康寿命の延伸を図り、元気な高齢者を増やすことで人口減少問題にも貢献する」との方向性が国ともしっかり共有されており、国民の皆様からも、乳幼児、学童期から始まる口腔健康管理の充実に、かつてない期待が高まっていると感じます。

日本歯科医師会は、それらの各方面からの期待に応えるため、一昨年に取り纏めた「2040年を見据えた歯科ビジョン」を未来への羅針盤として、具体的な未来への航路を海図に書き込み始めています。今大会に参加される皆様のいっそうのご理解とご協力をお願い申し上げます。

コロナ禍の厳しい状況下で児童・生徒の健康を守っておられる教育現場の皆様、そして本大会を主催頂いた文部科学省、日本学校歯科医会、日本学校保健会、山梨県歯科医師会、山梨県、山梨県教育委員会、甲府市、甲府市教育委員会をはじめとする関係各位のご尽力に心より御礼を申し上げます。

本大会を通じ、関係者皆様の絆がさらに深まることをお祈り申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。



## 祝 辞

公益社団法人日本歯科衛生士会

会長 吉田 直美

この度、第86回全国学校歯科保健研究大会が「口腔から全身の健康づくりを目指して～未来の生活を支える学校歯科保健～」をテーマに、甲府市の会場とオンラインのハイブリッドにて開催されますことを心からお祝い申し上げます。また、ご参加の皆様におかれましては日頃から学校歯科保健活動にご尽力、ご貢献なさっていらっしゃることに、心からの敬意を表します。

令和2年以降の世界的な新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、子供たちの学校生活にも大きな制限がかかり、オンライン授業など感染拡大防止のための様々な対応策を経験するなかで、子供たちが疾病や健康について知り、考える機会が増えていると思います。コロナ禍で特に顕著となったのが、生活習慣病罹患や免疫力低下が主要な重症化リスクであり、全身の健康維持が感染症に打ち勝つうえでいかに大切かということでした。口腔から全身の健康を一体としてとらえた、未来の生活を支える自律的健康づくりの礎となる学齢期の歯科保健の推進という今大会のメインテーマは、非常に時宜を得た意義深いものであると考えます。

今大会の開催地である甲府市では歯科医師会を中心とした他職種連携で「しっかり噛んで、おいしく、楽しく食べる」をテーマとした食育プログラムを展開していらっしゃいますが、このような健全な口腔機能の育成、豊かな食から健康な心身を培う取り組みがこれからの課題であると考えております。日本歯科衛生士会といたしましては、子供たちの口腔疾患予防ならびに健全な口腔機能育成のための活動を強化し、歯・口の健康と全身の健康づくりを通して、子供たちが生涯にわたる生きる力を獲得できるよう働きかけていきたいと思っております。

最後に、このたびの大会開催にあたり、日本学校歯科医会ならびに山梨県歯科医師会の皆様方の並々ならぬご尽力に敬意を表しますとともに、本大会のご成功およびご参加されます皆様の益々のご活躍を心からお祈り申し上げましてお祝いの言葉とさせていただきます。



# 祝 辞

全国学校保健主事会  
会長 中間 芳秀

第86回全国学校歯科保健研究大会が、世界遺産に登録され日本のシンボルでもある富士山をはじめ、八ヶ岳、南アルプスなどの山々があり、四季折々の美しい景観や水と緑にあふれる豊かな自然を有する、ここ山梨の地で盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

本大会にご参会の皆様におかれましては、日頃より学校歯科保健活動の推進・向上をはじめ、次代を担う子供たちが、健康で安全な生活を送れることができるよう、学校健康活動の推進に多大なご尽力をいただいておりますことに深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

併せて、全国学校保健主事会と様々な連携と多大なるご支援を賜っていますことに対しまして、重ねて心よりお礼を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの影響で外出を控えた結果、運動不足やストレスから身体的及び精神的に健康を脅かす「健康二次被害」が懸念されています。

また、近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を及ぼし、その健康課題は、複雑・多様化しています。その今日的な健康課題を解決すべく、各学校の保健主事や養護教諭と貴会をはじめ、学校保健関係者との連携を通じて、学校全体として学校保健に取り組む校内の組織体制を整備するとともに、学校・家庭・地域が一体となり、豊かな心と健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育む教育を推進する必要があります。

86回を迎える本大会において、全国から多くの学校保健歯科関係者が一堂に会し、「口腔から全身の健康づくりを目指して」—未来の生活を支える学校歯科保健—をテーマに研究協議が活発に行われることは、大変意義深い大会であり、児童生徒の健康保持増進に寄与する機会となります。これまで長きにわたり、脈々と積み重ねてこられた研究・実践・検証成果を含め、生涯にわたり、心豊かでたくましく生き抜く子供の育成に、この令和の時代にあっても一層貢献していただけるものと確信しております。

結びに、本大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様から心から感謝申し上げますとともに、本大会の成功とご参会の皆様のご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

全国養護教諭連絡協議会

会長 小林 幸恵

第86回全国学校歯科保健研究大会が山梨県甲府市において開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

また、ご参会の皆様におかれましては、日頃より学校歯科保健活動ならびに健康教育の推進に多大なご尽力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、近年、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきている中で、子供たちの健康課題はますます複雑化・多様化し、深刻化しています。このような、現代的な健康課題の解決において、学校歯科保健活動の推進は大変重要であると考えます。歯・口の健康は全身の疾病予防につながるもので、生涯にわたる健康づくりの視点からも健康教育の大きな柱になっています。

学校では歯・口の健康づくりを通して、子供が発達の段階に応じて自分の歯・口の健康課題を見つけ、課題解決のための方法を工夫・実践し、評価できるようにし、生涯にわたって健康な生活を送る基礎を培っています。歯・口の健康づくりは、健康寿命を延伸するための生活習慣病予防の学習材（教材）であり、子供たちが生涯を通じて健康な生活を送るための自律的な健康管理力を育成する上で極めて貴重な学習材だと考えます。

本大会において、「口腔から全身の健康づくりを目指して～未来の生活を支える学校歯科保健～」をテーマに協議が深められますことは、未来を担う子供たちのさらなる健康の保持増進につながるものと期待しております。

全国養護教諭連絡協議会におきましても、どんな時代であっても子供たちが夢と志を持ち続けていけるよう、学校歯科医の先生方をはじめ学校歯科保健に関わる皆様とともに連携・協働しながら健康教育を推進し、充実を図っていきたいと思っております。今後も、変わらぬご指導、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にご尽力されました公益社団法人日本学校歯科医会をはじめとする関係者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、ご参会の皆様のご健勝と本大会の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

日本私立小学校連合会  
会長 重永 睦夫

令和4年度 第86回全国学校歯科保健研究大会の開催にあたりまして、日本私立小学校連合会を代表しまして、ご挨拶申し上げます。

本年度は、山梨県立県民文化ホール(YCC県民文化ホール)における大会でございますが、コロナ禍が三年目を迎えてもなお収まらない状況のもとで、主催者の皆様のご苦心は大変なことであろうと拝察します。そのご尽力に心より敬服申し上げます。

私ども私立小学校も、本年度は、過去二年間のコロナ対策の経験をふまえ、感染対策に万全を期す中で、少しずつではありますが、授業はもとより体験学習など児童に通常の学校生活を送ってもらうようにしておるところでございます。学校行事や宿泊行事なども、つとめて実施する運びとしております。

そして、児童歯科健康診断においては、学校歯科医の先生方や歯科衛生士の皆様には、コロナ禍に入りましてからずっと対面で歯科健康診断を続けてくださってきましたことに、この場をお借りしまして深甚なる感謝を申し上げる次第です。

さて、本大会のテーマは「口腔から全身の健康づくりを目指して～未来の生活を支える学校歯科保健～」という格調高いものでございます。私は、私の学校を診ていただいている歯科の先生から、「口腔外科」について教わってまいりました。むし歯だけでなく、口腔内ひいては顎骨や顔面のケア、また耳鼻咽喉科とも連携し、身体全体の健康をみちびく観点が歯科には必要だと教わりました。そういうことから今年のテーマに感動しております。

日本私立小学校連合会は194校の私立小学校で構成され加盟率は80%に上ります。連合会に加盟していない私立小学校も学校歯科医の皆様にお世話になっているわけでございます。合わせて私立小学校には7万人を超える児童が学び、教職員も5千人を超えております。今後とも私どもに大きなご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

本大会の盛会を祈念致しまして私のお祝いの言葉とさせていただきます。



## 祝 辞

山梨県学校保健会  
会長 手塚 司朗

第86回全国学校歯科保健研究大会が山梨県において開催されますこと、心からお喜び申し上げます。

本大会に御参加の皆様には、日頃から学校歯科保健活動の推進・向上をはじめ、次世代を担う子供たちが、健康で安全な生活を送れることができるよう、学校健康活動の推進に多大なる御尽力をいただいておりますことに深く敬意を表しますとともに感謝申し上げます。

さて、近年の社会情勢や生活環境の急激な変化は、子供たちの心身の健康にも大きな影響を与えており、様々な健康課題が生じております。さらに、長引く新型コロナウイルス感染症により、日常の生活はもちろんのこと、学校の教育活動に極めて重大で深刻な影響を及ぼし、学校において感染対策の徹底と健康教育の更なる充実が求められているところです。

これらの多様な健康課題を解決するため、各学校保健関係者と医療関係者や地域の関係機関など、学校以外の関係者とも連携を強化し、学校、家庭、地域社会が一体となって対応していくことが重要であると考えます。

山梨県学校保健会においても、県教育委員会などの関係機関と連携し、学校保健・安全及び学校教育の発展に寄与する取組を進め、学校保健活動の充実に努めているところです。

こうした中、本大会において、全国から多くの学校歯科保健関係者がハイブリッド開催という新しい形で一堂に会し、「口腔から全身の健康づくりを目指して～未来の生活を支える学校歯科保健～」を主副題のもと、教育関係者がそれぞれの立場から、研究協議されますことは、誠に意義深いものであると感じております。

御参加の皆様におかれましては、本大会の成果を生かしていただき、それぞれの現場における指導や活動に役立てていただくことを期待しております。

結びに、本大会の開催に御尽力されました関係者の皆様に敬意を表するとともに、本大会の成功と御参加の皆様の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。